

京都大学にて

北京語言大学学生代表

見学日時：2018年5月30日（水）14:00-19:45

見学場所：京都大学

見学概要



午後2時、私たちは京都大学に到着した。

まず私たちは京都大学の教室に向かった。そこでは中国籍の教授から、京都大学の悠久の歴史から現在の学生の活動そして学術的成果まで詳しい紹介を受けた。その中でも建学以来守り続けている「自由の学風」についてはさらに踏み込んだ紹介があり、私たちは新たな学術的雰囲気を感じることができた。

約2時間の紹介の後、私たちは事前に決められたグループに分かれ、京都大学の日本人学生と1時間の討論を行った。討論のテーマは人工知能、日中両国の対外貿易、日中文化、環境問題など様々であった。討論の後、私たちは大講堂に移動し、各グループの中国人学生と日本人学生が一人ずつ代表として討論の成果を発表した。

討論の発表が終わった後、懇親会が始まった。懇親会には京都大学の役員や教授そして日本人学生の他、訪日団からは団長や先生方そして私たち学生が参加した。



なぜですか？

問: 京都大学にはなぜ日本国旗が掲揚されていないのか？

答: 中国の大学には中国国旗が不可欠であるのとは違い、京都大学では日本国旗を目にすることは無い。なぜなら、彼らは学術とは独立、自由そして開放的であるべきで、政治や国境により制限されるべきではないと考えているからである。京都大学は「日本の大学」ではなく、「知識や真理を求める大学」である。

問: 日本における黄砂はすべて中国からやってくるのか？

答: すべてというわけではない。マスコミの影響からか多くの日本国民は黄砂がすべて中国からやってくると思っているが、実際はそうではない。その理由は中国と日本は海で隔たれているため、黄砂の大部分は日本にたどり着く前に海に落ちる。また夏の風向きは日本から中国に向かうため、中国に黄砂があっても日本に飛ばされることはない。(→老学生の個人的見解)

感想

京都大学の自由の学風は最も印象深かった。同大学の先生のお話では、京都大学では学生等には言論の自由があり、自らのあらゆる主張や見解を自由に発信することができる。また言論の自由を脅かすものを除くすべての言論は認められている。教授に対する評価基準も論文の数ではなく、彼らは自分の研究したい分野の研究を続け、わずかな数の論文発表でも構わない。京都大学では論文の数よりもその質や興味を重視しており、また功利的ではないため、学者が何代にもわたって同じ研究を継続することもある。この点については中国の大学とは明らかな違いがある。私たち中国の大学も「自由の学風」から学び、中国の学术界をこれまで以上に自由に、また知識ある学者らがじっくりと研究できるようにしてはどうだろうか。